

平成27年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面の課題について

平成27年7月23日



一般社団法人 **Jミルク**
Japan Dairy Association (J-milk)

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 27 年 5 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 27 年度の気温は、平年並で設定。

表 1：平成 27 年度の地域別生乳生産量（見通し）

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
4 月	625	99.7%	318	100.9%	307	98.5%
5 月	649	99.8%	335	100.5%	314	99.1%
6 月	623	100.6%	328	101.2%	295	100.0%
7 月	620	100.4%	333	101.2%	287	99.4%
8 月	600	99.9%	324	101.4%	275	98.3%
9 月	578	99.0%	311	100.5%	267	97.4%
10 月	595	99.4%	317	101.1%	278	97.6%
11 月	578	99.0%	305	100.2%	272	97.5%
12 月	608	99.2%	322	100.4%	287	97.9%
1 月	620	99.4%	327	100.5%	293	98.2%
2 月	591	103.2%	309	104.4%	282	101.9%
3 月	640	99.6%	332	100.7%	308	98.6%
第 1 四半期	1,897	100.0%	981	100.9%	916	99.2%
第 2 四半期	1,798	99.8%	968	101.0%	829	98.4%
第 3 四半期	1,781	99.2%	944	100.6%	837	97.7%
第 4 四半期	1,851	100.7%	967	101.8%	883	99.5%
上期	3,694	99.9%	1,949	100.9%	1,745	98.8%
下期	3,632	99.9%	1,911	101.2%	1,720	98.6%
年度計	7,326	99.9%	3,861	101.1%	3,465	98.7%
閏年修正後		99.7%		100.8%		98.4%

※表は、白枠部分が実績、着色部分が予測（平成 27 年 6 月以降）。以下、全て同様。

【生乳生産量の見通し】

27 年度の生乳生産量は、北海道では、生産の主力となる 2~4 歳の乳牛頭数が前年度を超えることから、26 年度を上回る（3,861 千トﾝ・前年比 101.1%）ものの、都府県では、引き続き減産基調が続き 26 年度を下回る（3,465 千トﾝ・同 98.7%）見通しで、その結果、全国の生乳生産量は、ほぼ前年並み（7,326 千トﾝ・同 99.9%）と見込まれる。

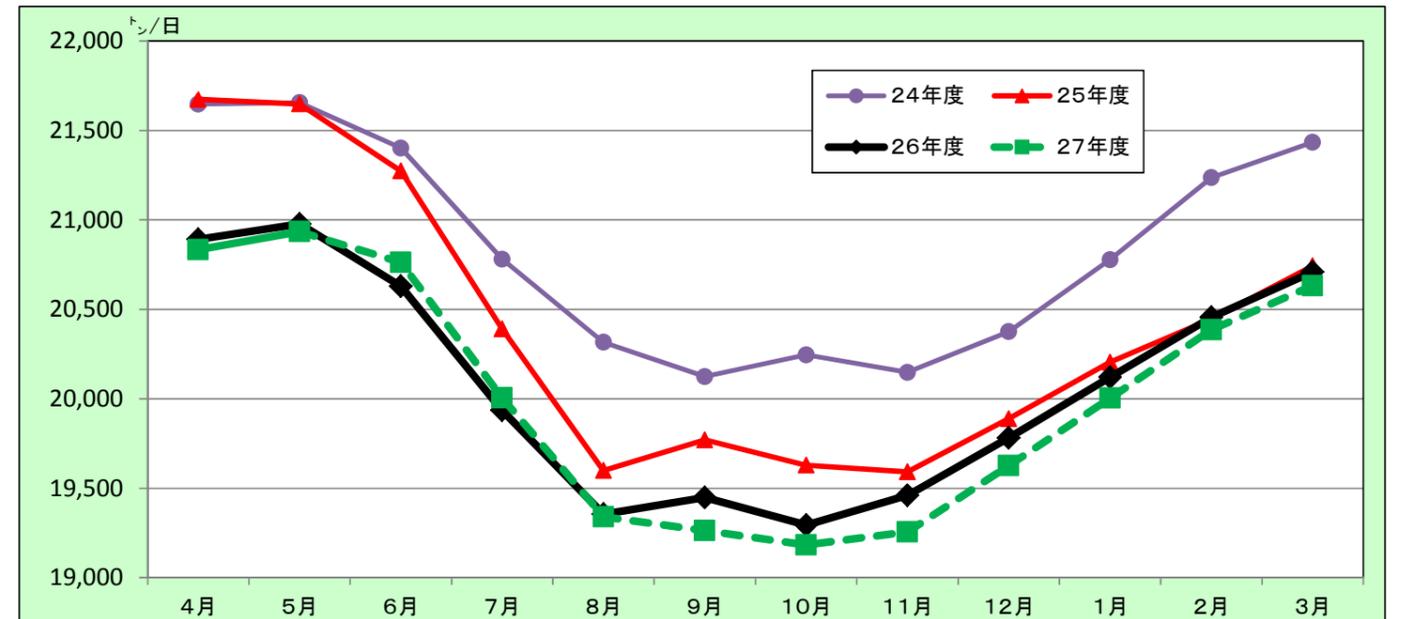
なお、前回 5 月公表時の 27 年度通期予測との差異（閏年修正前）は、以下の通り。

「全国」：▲5 千トﾝ（前年比▲0.1 ポイント）

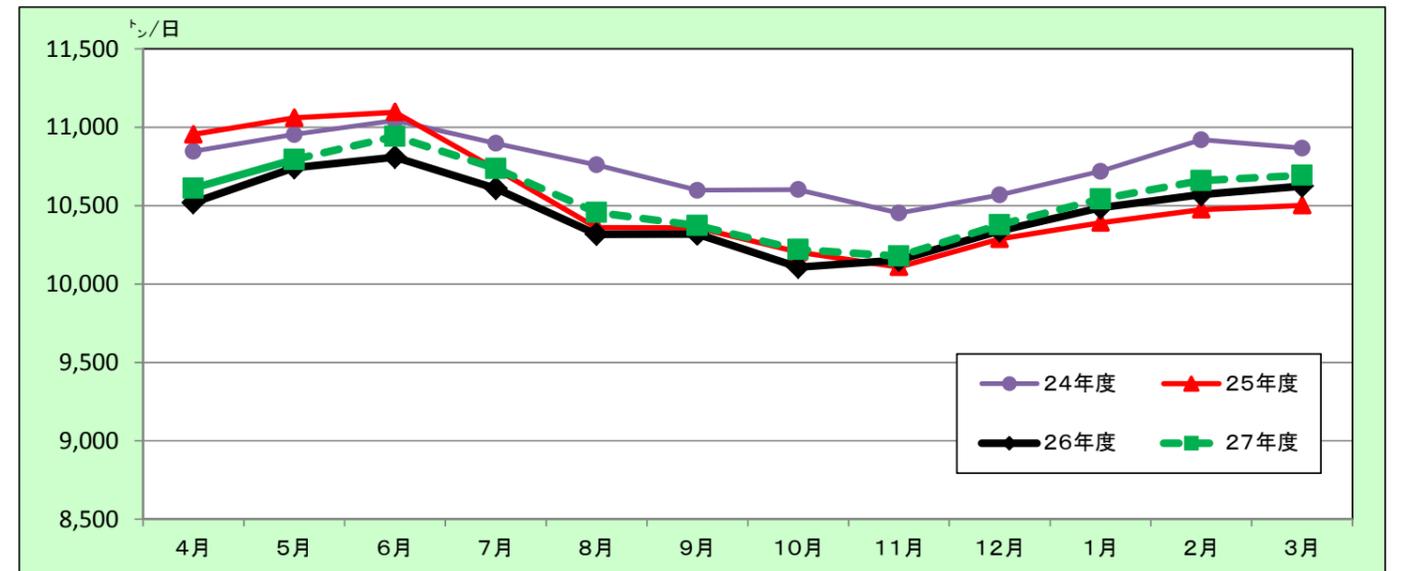
「北海道」：▲16 千トﾝ（同▲0.4 ポイント）

「都府県」：+11 千トﾝ（同+0.3 ポイント）

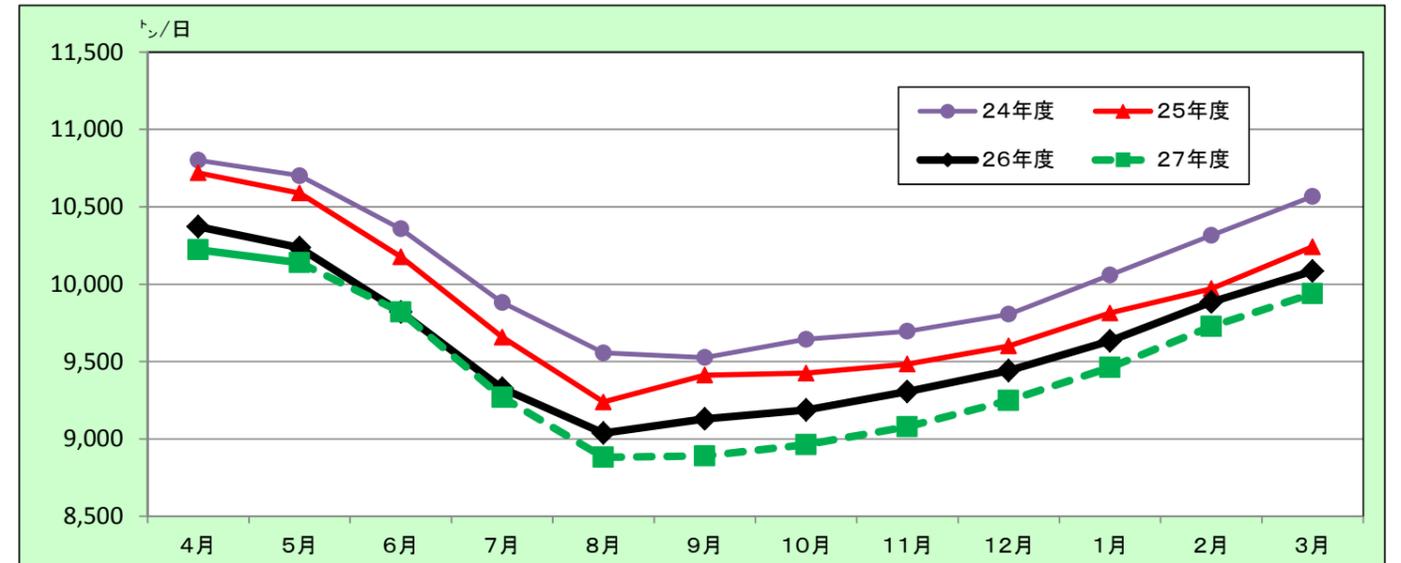
グラフ 1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ 1-2：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-3：都府県の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成 27 年 5 月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 27 年度の気温は、平年並で設定。

表 2：平成 27 年度の牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	389	100.0%	245	101.0%	8	81.7%	28	99.8%	107	99.3%	89	101.8%
5月	418	100.1%	261	100.2%	8	80.8%	31	103.3%	118	100.9%	92	102.3%
6月	418	100.0%	264	100.3%	8	82.9%	30	101.6%	117	100.2%	90	103.6%
7月	421	100.0%	255	100.9%	8	86.8%	32	101.9%	125	98.9%	90	103.5%
8月	406	102.0%	238	101.2%	9	87.7%	32	104.1%	127	104.1%	85	103.9%
9月	427	100.4%	264	99.9%	9	87.4%	31	103.7%	123	101.7%	85	100.8%
10月	425	99.4%	265	99.2%	8	82.3%	31	102.8%	120	100.3%	86	100.5%
11月	388	99.3%	249	99.2%	8	76.1%	28	104.3%	104	100.7%	79	103.1%
12月	370	99.0%	237	98.6%	8	70.8%	27	103.8%	98	101.8%	76	100.3%
1月	369	98.3%	236	98.0%	7	71.8%	28	103.1%	98	100.4%	80	95.7%
2月	365	102.4%	237	102.2%	7	76.4%	27	108.3%	95	104.1%	81	104.8%
3月	379	98.7%	239	97.8%	8	80.7%	29	105.0%	104	100.8%	89	99.9%
第1四半期	1,225	100.0%	770	100.5%	24	81.8%	89	101.6%	341	100.1%	272	102.6%
第2四半期	1,254	100.8%	757	100.6%	26	87.3%	96	103.2%	375	101.5%	260	102.7%
第3四半期	1,183	99.2%	751	99.0%	24	76.2%	86	103.6%	322	100.9%	240	101.3%
第4四半期	1,113	99.8%	712	99.3%	21	76.3%	83	105.4%	297	101.7%	250	100.0%
上期	2,480	100.4%	1,527	100.6%	50	84.5%	186	102.4%	717	100.9%	532	102.6%
下期	2,296	99.5%	1,463	99.1%	45	76.2%	169	104.5%	619	101.2%	490	100.6%
年度計	4,776	100.0%	2,990	99.9%	95	80.4%	355	103.4%	1,336	101.0%	1,022	101.7%
閏年修正後		99.7%		99.6%		80.2%		103.1%		100.8%		101.4%

【牛乳等生産量の見通し】

27 年度の牛乳等生産量は、4 月からの牛乳等の価格改定による影響が注目されてきたところであるが、需要は堅調に推移しており、「牛乳類」は 26 年度と同水準となり前年比 100.0% の見通し。「はっ酵乳」も、26 年度を上回り同 101.7% と見込まれる。

なお、前回 5 月公表時の 27 年度通期予測との差異（閏年修正前）は、以下の通り。

「牛乳類」：+37 千 K1（前年比+0.8 ポイント）

「牛乳」：+6 千 K1（同+0.2 ポイント）

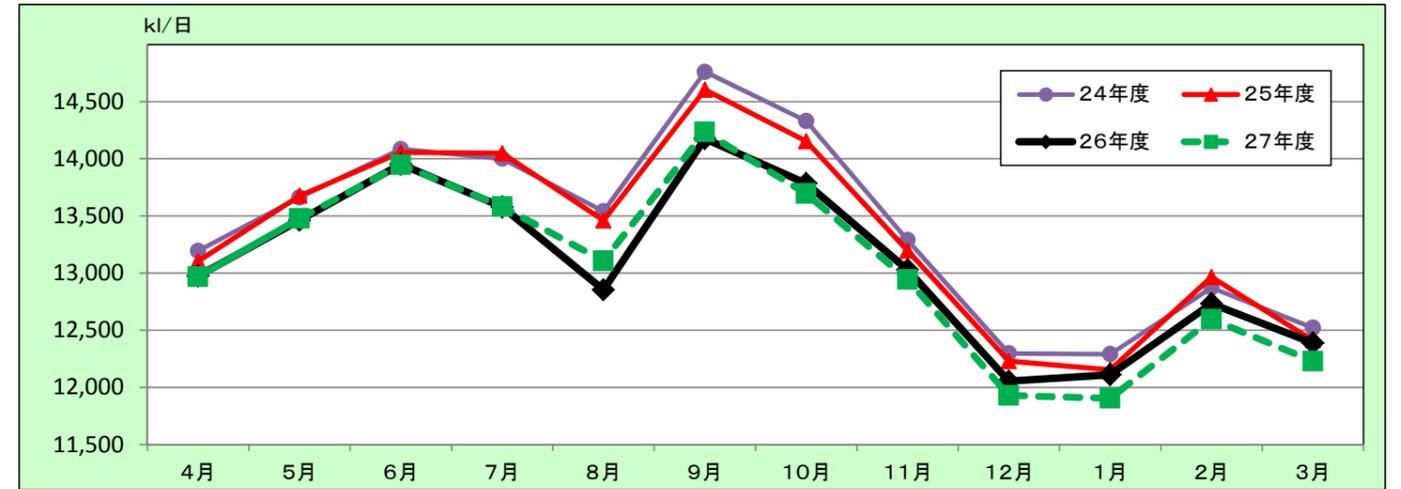
「加工乳」：▲11 千 K1（同▲9.2 ポイント）

「成分調整牛乳」：+21 千 K1（同+5.9 ポイント）

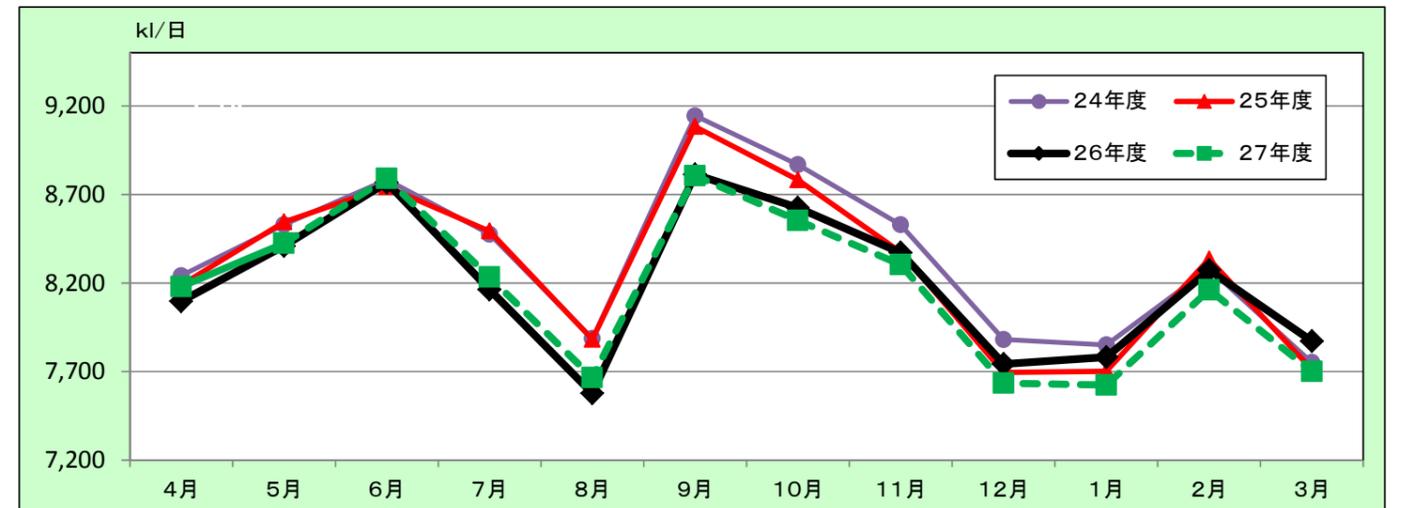
「乳飲料」：+21 千 K1（同+1.5 ポイント）

「はっ酵乳」：+7 千 K1（同+0.8 ポイント）

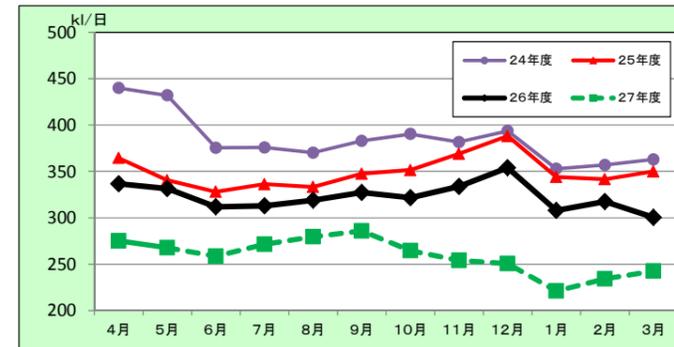
グラフ 2-1：牛乳類の生産量（日均量）



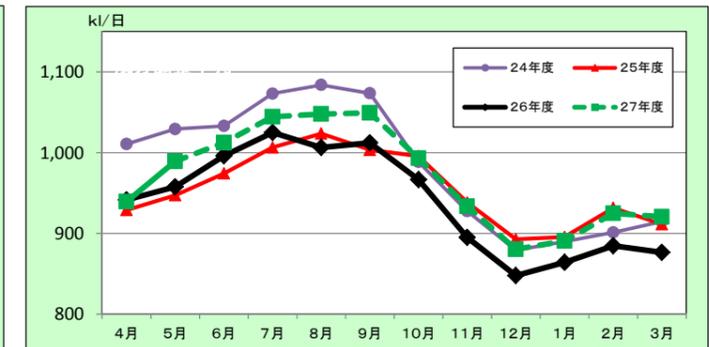
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



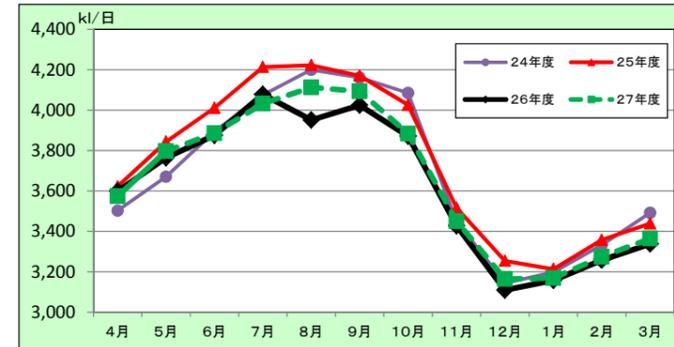
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



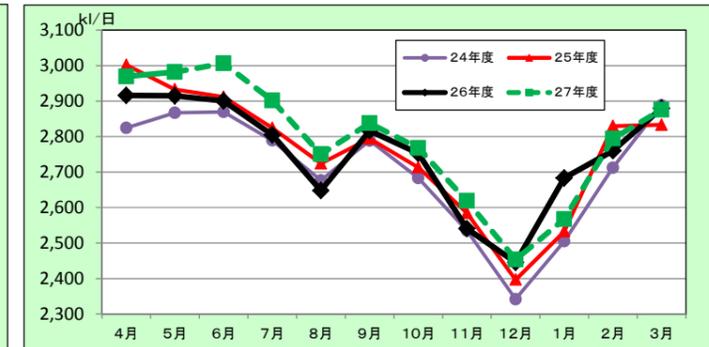
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成27年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	625	99.7%	5	90.8%	620	99.8%	322	101.1%	298	98.4%
5月	649	99.8%	5	93.5%	644	99.8%	347	101.5%	297	98.0%
6月	623	100.6%	5	94.4%	618	100.7%	347	100.5%	271	101.0%
7月	620	100.4%	5	93.9%	616	100.4%	340	100.9%	275	99.8%
8月	600	99.9%	5	93.5%	595	100.0%	322	101.7%	273	98.0%
9月	578	99.0%	5	92.9%	573	99.1%	343	100.3%	230	97.3%
10月	595	99.4%	5	93.1%	590	99.5%	344	99.5%	246	99.4%
11月	578	99.0%	5	92.9%	573	99.0%	324	99.8%	249	98.0%
12月	608	99.2%	5	93.0%	604	99.3%	303	99.1%	300	99.4%
1月	620	99.4%	5	93.1%	616	99.5%	309	98.3%	306	100.7%
2月	591	103.2%	5	97.3%	586	103.3%	307	102.8%	279	103.8%
3月	640	99.6%	5	93.4%	635	99.7%	314	98.7%	321	100.7%
第1四半期	1,897	100.0%	14	92.9%	1,883	100.1%	1,016	101.0%	866	99.1%
第2四半期	1,798	99.8%	14	93.4%	1,784	99.8%	1,006	101.0%	778	98.4%
第3四半期	1,781	99.2%	14	93.0%	1,767	99.2%	971	99.5%	796	99.0%
第4四半期	1,851	100.7%	14	94.6%	1,837	100.7%	930	99.9%	907	101.6%
上期	3,694	99.9%	28	93.1%	3,667	100.0%	2,022	101.0%	1,644	98.8%
下期	3,632	99.9%	28	93.8%	3,604	100.0%	1,902	99.7%	1,702	100.4%
年度計	7,326	99.9%	56	93.5%	7,271	100.0%	3,924	100.3%	3,347	99.6%
閏年修正後		99.7%		93.2%		99.7%		100.1%		99.3%

【用途別処理量の見通し】

27年度の用途別処理量は、「生乳供給量」がほぼ前年並みと見込まれるなかで、「牛乳等向処理量」が26年度をやや上回り3,924千ト、前年比100.3%と見込まれることから、「乳製品向処理量」は26年度をやや下回り3,347千ト、同99.6%と見込まれる。

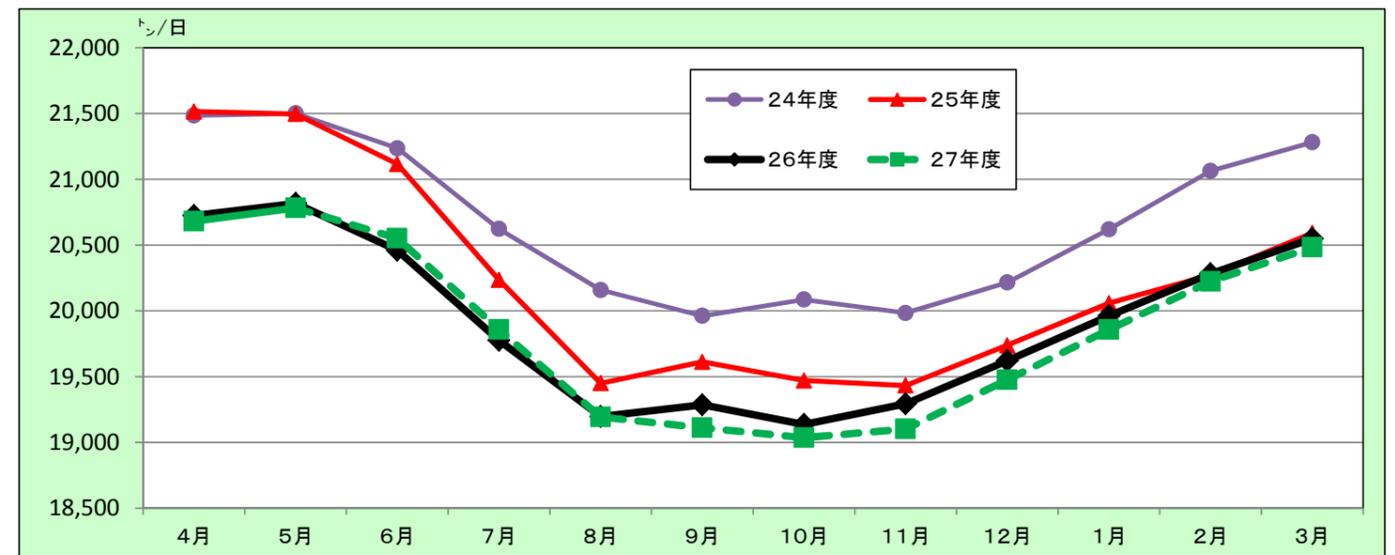
なお、前回5月公表時の27年度通期予測との差異（閏年修正前）は、以下の通り。

「生乳供給量」：±0千ト（前年比±0.0ポイント）

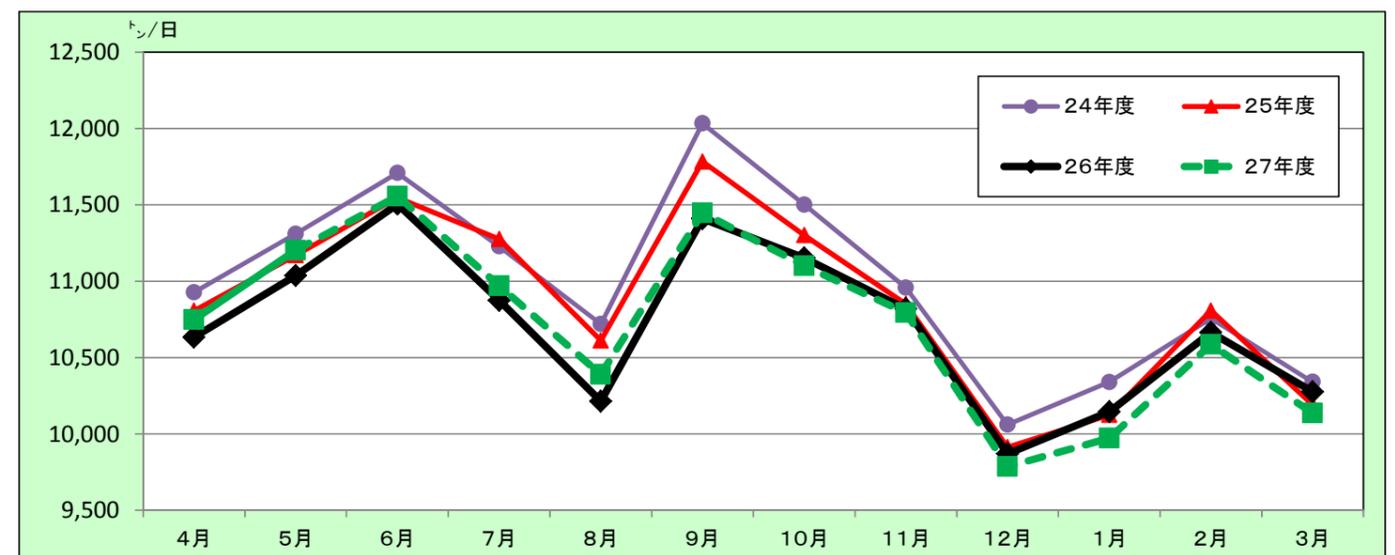
「牛乳等向」：+35千ト（同+0.8ポイント）

「乳製品向」：▲36千ト（同▲1.0ポイント）

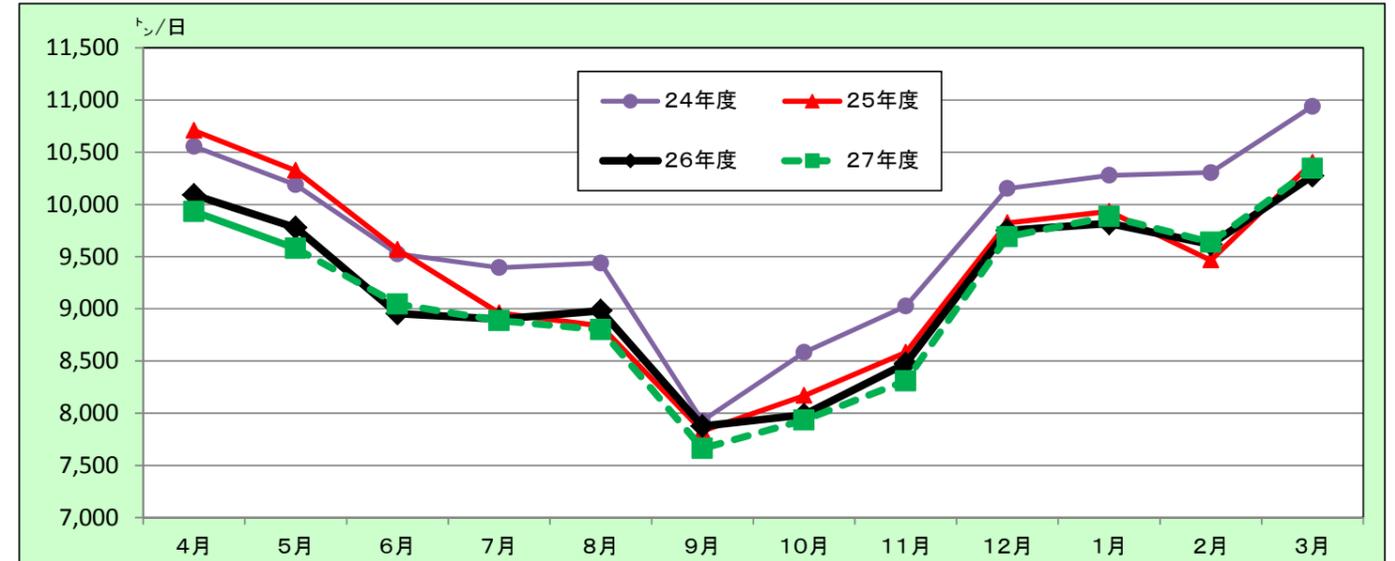
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4：平成27年度の都府県の需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	(千トン)											
4月	304	98.5%	277	100.7%	13	99.4%	14	19	101.9%	0	32	84.5%
5月	312	99.0%	300	101.0%	13	91.0%	-1	23	107.4%	0	22	87.1%
6月	292	100.0%	300	100.2%	13	100.5%	-21	33	100.4%	0	12	99.5%
7月	285	99.4%	290	100.1%	14	100.0%	-19	30	90.4%	0	12	69.1%
8月	273	98.3%	273	100.8%	16	100.0%	-15	33	114.0%	0	18	85.9%
9月	264	97.4%	294	100.0%	13	100.0%	-43	50	114.8%	0	7	92.6%
10月	276	97.6%	294	99.0%	14	100.0%	-32	42	110.0%	0	9	98.9%
11月	270	97.5%	277	99.2%	14	100.0%	-20	33	115.5%	0	12	100.0%
12月	284	97.9%	258	98.5%	16	100.0%	10	22	99.3%	0	32	93.7%
1月	291	98.2%	265	97.9%	14	100.0%	12	20	98.3%	0	32	100.6%
2月	280	101.9%	263	102.2%	12	103.6%	4	19	101.8%	0	23	98.2%
3月	306	98.6%	267	98.3%	14	100.0%	25	17	97.7%	0	42	100.6%
第1四半期	908	99.2%	877	100.6%	39	96.9%	-8	75	102.8%	1	67	87.7%
第2四半期	823	98.4%	856	100.3%	43	100.0%	-77	113	106.8%	0	36	80.7%
第3四半期	830	97.7%	829	98.9%	44	100.0%	-43	96	109.1%	0	54	96.0%
第4四半期	877	99.5%	795	99.4%	41	101.1%	41	56	99.3%	0	96	100.0%
上期	1,731	98.8%	1,733	100.5%	82	98.5%	-85	188	105.2%	1	103	85.1%
下期	1,707	98.6%	1,624	99.1%	85	100.5%	-2	152	105.3%	0	150	98.5%
年度計	3,437	98.7%	3,358	99.8%	167	99.5%	-87	340	105.3%	1	253	92.6%

【都府県の生乳需給の見通し】

都府県の生乳需給は、「生乳供給量」が前年を下回って推移し、一方、「牛乳等向処理量」はほぼ前年並みの見通しである。その結果、北海道から都府県への「移入量(道外移出量)」は、需要期を中心に前年水準と比較して増加傾向で推移するものと見込まれる。

5. 特定乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの出回り量は、平成27年5月までの消費量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均消費量をもとに算出。

表5：平成27年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	出回り量		過不足 A+B-C	期末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	(千トン)								
第1四半期	32.9	105.1%	5.1	32.1	90.3%	5.9	52.5	4.6	134.0%
第2四半期	24.9	100.4%	5.4	35.3	96.9%	-5.0	47.5	4.2	141.5%
第3四半期	29.7	100.9%	4.9	34.1	104.5%	0.5	48.0	4.2	139.9%
第4四半期	37.6	106.1%		32.9	101.2%	4.7	52.7	4.6	113.1%
上期	57.8	103.0%	10.5	67.3	93.6%	1.0	47.5	4.2	141.5%
下期	67.2	103.7%	4.9	67.0	102.8%	5.2	52.7	4.6	113.1%
年度計	125.0	103.4%	15.4	134.3	98.0%	6.1	52.7	4.6	113.1%

グラフ5：脱脂粉乳の出回り量及び在庫量（四半期毎）

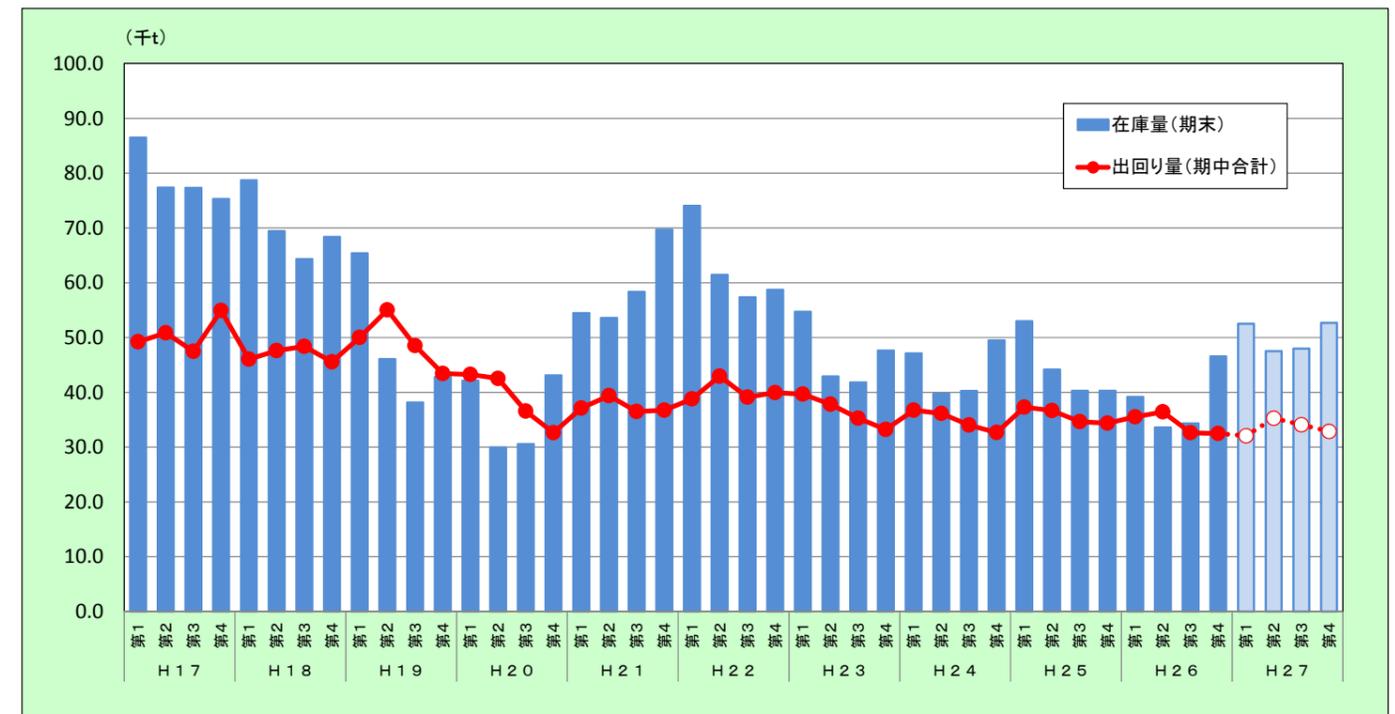
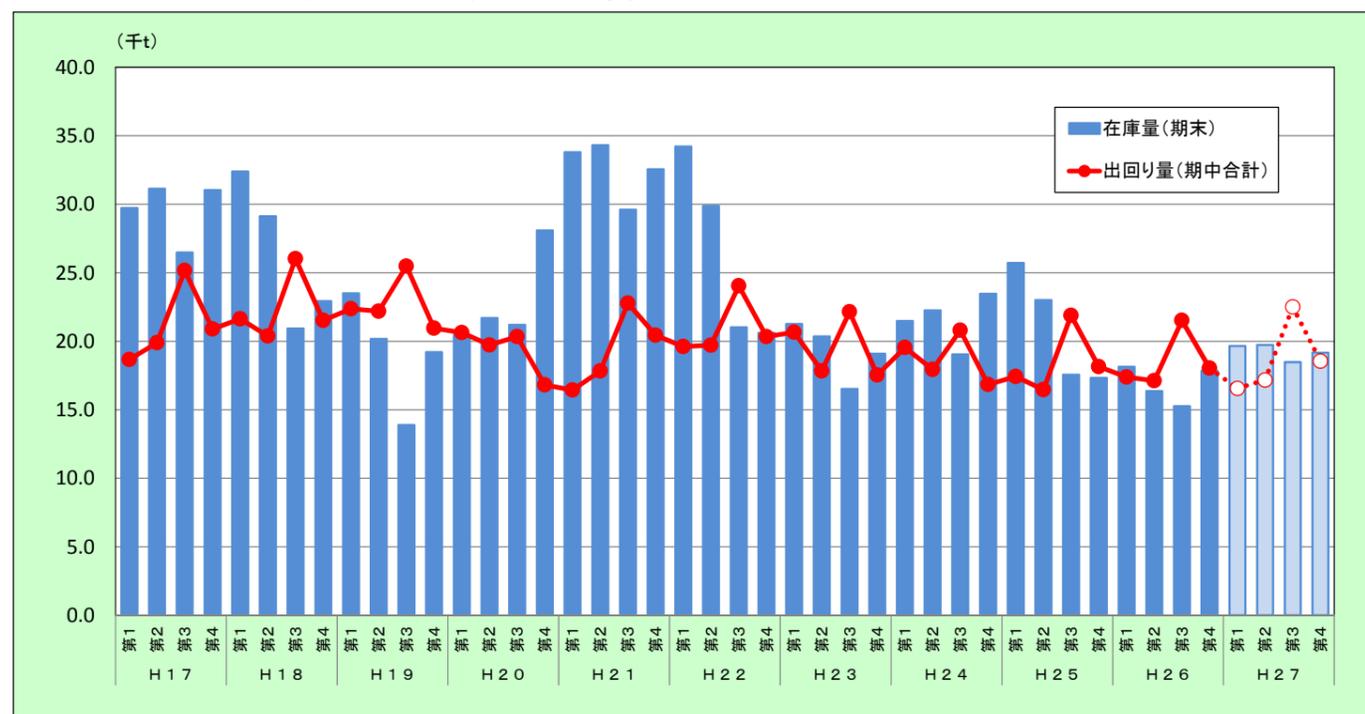


表6：平成27年度のバター需給（見通し）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し	出回り量		過不足 A+B-C	期末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
第1四半期	17.3	102.3%	1.0	16.6	95.3%	1.8	19.6	3.2	108.4%
第2四半期	13.0	100.4%	4.3	17.2	100.3%	0.1	19.7	3.2	120.6%
第3四半期	13.8	101.0%	7.5	22.5	104.6%	-1.3	18.5	3.0	121.1%
第4四半期	19.2	106.1%		18.6	102.9%	0.7	19.2	3.1	107.4%
上期	30.3	101.5%	5.3	33.7	97.8%	1.9	19.7	3.2	120.6%
下期	33.0	103.9%	7.5	41.1	103.8%	-0.6	19.2	3.1	107.4%
年度計	63.3	102.7%	12.8	74.8	101.0%	1.3	19.2	3.1	107.4%

グラフ6：バターの出回り量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、27年度の生産量は前年度を上回り125.0千トン、前年比103.4%と見込まれる。26年度分追加輸入残量並びに27年度分カレントアクセス輸入数量と追加輸入数量として15.4千トンが売り渡される見込みとなっており、27年度末在庫量は52.7千トン（前年度末比+6.2千トン）と増加する見込みである。

バターについても、27年度生産量は前年度を上回り63.3千トン、同102.7%と見込まれる。27年度分カレントアクセス輸入数量2.8千トンと追加輸入数量10.0千トンが売り渡される見込みとなっており、27年度末在庫量は19.2千トン（前年度末比+1.4千トン）と増加する見込みである。

6. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 生乳生産回復に向けた取組みの継続

27年度の生乳需給は、生乳生産量がほぼ前年並み（前年比99.9%）と見込まれるが、6月には指定団体における受託販売乳量が対前年を上回るなど、回復の動きも見られる。その中で、牛乳等向生乳処理量が、4月の価格改定以降も比較的堅調に推移しているため、乳製品向生乳処理量は前年度を下回ると見込まれる。

このような需給環境の中で、当面の需要期の対応としては、夏期における生乳生産量の維持が課題であり、暑熱対策や飼料設計など適切な取組みが重要である。

一方で、直近（27年1～3月）の乳用牛への黒毛和種交配率は、引き続き高い水準となっている。こうした状況に留意しつつ、現在、生乳生産現場で推進されている後継牛確保や増産対応などの努力が着実な成果につながるよう、酪農乳業関係者は一丸となって酪農経営を支えていくことが求められる。

(2) 夏期の的確な需給調整対応の実施

27年度は4月からの価格改定による影響に注目が集まったところであるが、牛乳等需要は天候等の後押しも含め比較的堅調にスタートした。直近6月は、梅雨入り後の低温現象と地域的な大雨の影響等により需要が軟化したものの、今後の天候状況によってはこれまでのトレンドに戻ることも想定される。

また、牛乳等向生乳の最需要期については、例年事前に準備しながら臨んでいるが、学乳供給が開始される9月上旬などは、短期間に需要が集中し、一時的な需給混乱が起こる可能性もある。このことから、酪農乳業関係者は、広域生乳の需給調整が円滑に行われるよう、日々の需給動向に注視しつつ情報共有に努め、きめ細かな対応を図っていく必要がある。

(3) 乳製品安定供給への取組み

特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の生産量が、前年度を上回る見込みであることに加え、国は本年5月に脱脂粉乳5千トン、バター10千トンの追加輸入を決定し、今後、順次売り渡される見込みであることから、脱脂粉乳・バターの供給量は、前年水準を上回り、乳製品在庫は年度末に向けて適正な水準に向かうと考えられる。

こうした状況を踏まえ、国と酪農乳業は一体となり、乳製品の需要確保に向け、一般消費者を含め適切な需給情報を発信するとともに、市場への安定供給に努めることが重要である。